

地方創生施策による 脱炭素社会実現に向けた取組

令和3年6月9日

坂本内閣府特命担当大臣 提出資料

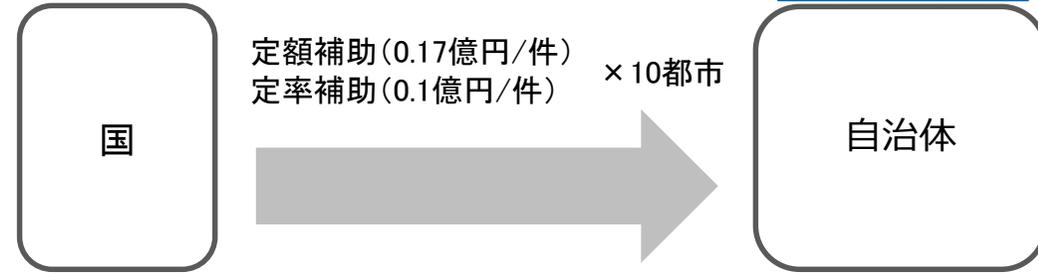
SDGs 未来都市・自治体SDGsモデル事業

- SDGsの理念に沿った基本的・総合的取組を推進しようとする都市・地域の中から、特に、経済・社会・環境の三側面における新しい価値創出を通して持続可能な開発を実現するポテンシャルが高い都市・地域として選定。
- 5月21日に、**SDGs未来都市として31市町村を新たに選定。今回の選定より、選定基準に脱炭素の視点を追加。**

【事業概要】

- 地方創生分野における日本の「SDGsモデル」の構築に向け、自治体によるSDGsの達成に向けた**優れた取組を提案する都市を「SDGs未来都市」として選定。**
- その中で**特に先導的な取組を「自治体SDGsモデル事業」として選定し、資金的支援を行う。**
(普及啓発等経費：定額補助、事業実施等経費：定率補助1/2)。

【スキーム図】



【令和3年度SDGs未来都市 脱炭素に向けた取組提案例】

北海道上士幌町

カーボンニュートラルと利便性・地域強靱性の両立

○再生可能エネルギーの地産地消

家畜ふん尿を原料としたバイオガス発電による地域電力を活用し、地域商社による電力小売による再生可能エネルギーの地産地消を推進する。



○ドローン配送とEVによる空港直行便の実証

自動運転バスによる買い物支援に加え、ドローンによる商品配送の実用化に向けた実証を行う。また、畜産バイオマス発電による電力を活用したEV自動車による空港直行便を運行させる。

新潟県妙高市

生命地域妙高のエコモビリティチャレンジ

○新たなエコモビリティの導入

散策の範囲・時間に制約がある高齢者や身体の不自由な方等を対象に、エコモビリティを活用して自然を満喫できるサービスを実証する。また、実証の結果を踏まえ、環境にやさしい新たなアクティビティとして横展開し、SDGsツーリズムの発展につなげる。



○AIを活用したシェア型デマンド交通サービスの提供

利用者はスマートフォン等で、あらかじめ乗車する時刻や場所、行先等を予約。運行事業者はAIを活用したシステムで最適なルートを決めて運行することで、効率化と利便性向上につなげる。

地方創生 × 脱炭素

－地方創生と脱炭素の好循環－

- 今後の地方創生の取組を進めるに当たっての新たな視点として、**ヒューマン(ひとの流れの創出、人材育成)**、**デジタル(地方におけるDXの推進)**、そして**グリーン(地方における脱炭素社会の実現)**が重要。
- 地域における脱炭素社会実現に向けては、それぞれの**脱炭素の取組を雇用創出や経済活性化など地域課題の解決につなげ、地方創生と脱炭素の好循環を生み出すことが重要。**
- 関係省庁とも連携の上、**①グリーン分野の人材支援**、**②地方公共団体間の情報共有・計画策定等の支援**、**③官民連携の取組の推進**、**④地方創生SDGs等の推進**などに取り組む。

➤ 「地方創生と脱炭素の好循環」に向けたフロー

1. 地域資源を活用した再生可能エネルギーの導入



2. 再生可能エネルギー事業を基盤とするサービス等創出

▶ エネルギーの地産地消



▶ 発電副産物の有効活用

▶ 地域エネルギー企業による 売電収益を地域に還元する住民サービス



3. 地域課題の解決

雇用創出

地方への
人の流れ

稼ぐ地域
づくり

安全で
暮らしやすい
まちづくり

脱炭素事業
への理解増進

地方創生と脱炭素の好循環

➤ 「地方創生と脱炭素の好循環」の実現に向けた取組

グリーン分野の人材支援

地方公共団体間の情報共有・
計画策定等の支援

官民連携の取組の推進

地方創生SDGs等の推進

地域社会・経済を支える分野における
脱炭素化の取組の推進